

～単収 200kg/10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて～

- 『培土作業』や『排水対策』等の基本技術を徹底し、初期生育を確保しましょう。
- 培土作業後は、発生している雑草の種類を確認し、除草剤を適切に使用しましょう。

1 培土作業

～1回目は遅れずに、2回目は確実に～

- ・培土の形状や高さを適切にするため、培土作業の前に培土板や耕うん爪の点検・調整を必ず行いましょう。(すり減った爪は交換する)
- ・培土作業は、大豆の生育状況を確認の上、ほ場が乾いている時に晴れ間を見て早めに行いましょう。
- ・培土の効果が高めるため、適期に2回行うとともに、適正な作業速度で株元までしっかり土をかけましょう。
- ・降雨等で適期に作業が出来ない場合は、多少遅くなったとしても、土が乾いてから実施しましょう。

培土の効果

- ①排水の促進と湿害の防止
- ②根域の拡大と根粒菌の増加
- ③雑草の抑制
- ④土壌通気性の向上
- ⑤倒伏の防止

本葉2枚目

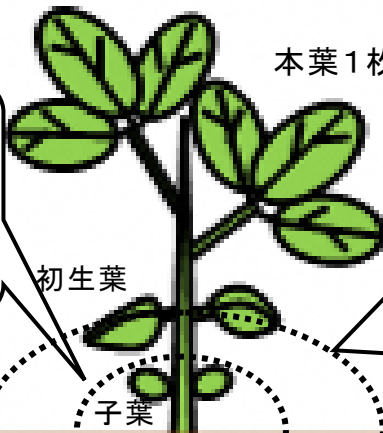
本葉1枚目

<1回目>

播種後20～25日頃

(本葉2～3葉期)

子葉が埋まる程度



<2回目>

播種後30～35日頃

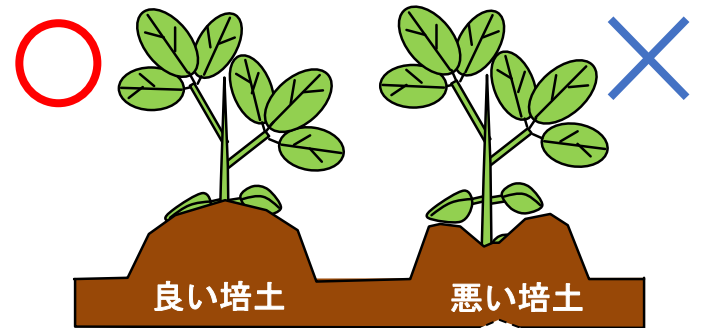
(本葉4～5葉期)

初生葉が埋まる程度



※土寄せされた茎から出る新根(不定根)の発生が盛んなのは
播種後20～35日頃
→大豆の根が大きくなるタイミングで適期培土を行いましょう!

～培土は株元まで土をかけて『かまぼこ型』に～



◆株元に凹みのあるM字型培土はダメ!

- ・凹んだ部分に水がたまり、湿害や病害が発生する
- ・土がないため新根が伸びず、生育不良となる
- ・株間に発生する雑草を抑制できない
- ・倒伏しやすく、コンバイン収穫が困難となる

2 排水対策

～生育量確保のため、畦間かん水の実施に備えて、排水対策の徹底を～

- ・培土作業後は必ず排水溝を点検し、その日のうちに培土でできた溝と額縁排水溝や排水口とをしっかりと連結し、今後の排水や畦間かん水が速やかに行えるようにしましょう。
- ・降雨後にも随時排水溝の点検と手直しを行い、雨水を停滞させないようにしましょう。



- ①ほ場の排水性向上のため、枕地の畦を切って排水口に直結する溝を増設する。
- ②排水口を掘り下げ、排水溝と連結する。

排水溝の手直しをしていないと、畦間に水が溜まります。溝を連結して、ほ場の排水性を高めましょう。



3 雑草防除

～雑草の種類に応じて、適切な対策を～

- ・雑草が多発すると、大豆の生育や管理作業に悪影響を及ぼし、収量・品質を大きく低下させます。そのため、培土や除草剤散布を組み合わせ、適切に防除しましょう。
- ・雑草の発生が多く、培土のみで抑えきれない場合は、雑草の種類や葉齢に応じて除草剤を使用しましょう。
- ・除草剤を使用する場合は、以下の表を参考に使用上の注意をよく確認して正しく使用しましょう。
- ・開花期での下記除草剤の散布は、落花等の恐れがあるため行わないようにしましょう。

全面散布の場合は、株元の雑草までしっかり薬剤がかかる、大豆3葉期頃までが散布適期です。

○除草剤散布の目安

対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量	使用方法	散布時期	使用回数
1年生イネ科 (スズメノカタビラ除く)	ポルトフロアブル	200～300mℓ (水100ℓで希釈)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～10葉期) ※収穫30日前まで	1回
1年生広葉 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤 注1)	100～150mℓ (水100ℓで希釈)	雑草茎葉散布 又は全面散布	大豆2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) ※収穫45日前まで	1回
		300～500mℓ (水100ℓで希釈)	畦間雑草 茎葉散布	大豆の生育期 (雑草の生育初期～6葉期) ※収穫45日前まで	
1年生雑草	パワーガイザー液剤 注2)	200～300mℓ (水100ℓで希釈)	畦間雑草 茎葉散布	生育期(雑草発生揃期～2葉期) ※収穫30日前まで	1回
	ロロックス 注3)	100～200g (水70～150ℓ で希釈)	雑草茎葉兼 土壌散布 (畦間・株間処理)	大豆3葉期以降、雑草生育期 (雑草草丈15cm以下) ※収穫30日前まで	1回
	バスタ液剤 注3)	300～500mℓ (水100～150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	雑草生育期 ※収穫28日前まで	ゲルホシネット及び ゲルホシネットP 3回以内
雑草茎葉散布 (株間処理)			大豆5葉期以降、雑草生育期 ※収穫28日前まで		

- 注1：大豆バサグラン液剤は高温時の使用で薬害が出る恐れがあるため、高温が続くと予想される場合は使用を避ける。
 注2：畦間散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると黄化症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意する。
 注3：ロロックス、バスタ液剤は非選択性除草剤のため、吊り下げの専用ノズルを使用し、大豆の葉にかからないように十分注意して散布する。

○難防除雑草の対策・防除 ～ほ場に入れない、種子を増やさない、ほ場外に広げない～

管内では、近年、マルバルコウ等の帰化アサガオ類やイヌホオズキ類、ヒユ類等の難防除雑草の発生が増加しています。

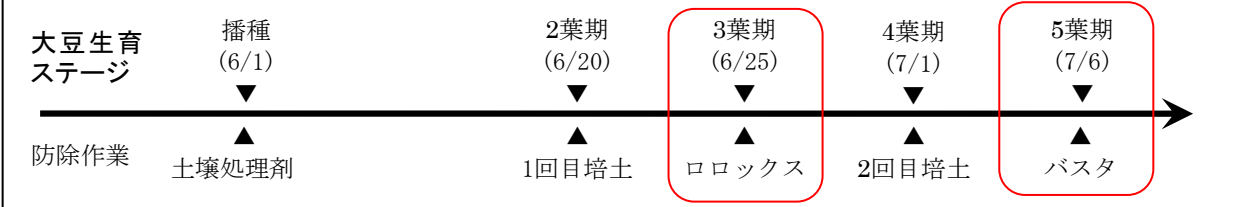
これらの雑草は生育が速く繁殖力も旺盛で、ほ場内で生育が進むと防除が困難になります。発見したら直ちに防除（手取り、除草剤散布）するとともに、手取りした株は種子を残さないようにほ場外で処分（ほ場に種子を残さない・用水に流さない）しましょう。



大豆ほ場の帰化アサガオ類

【難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安】

○イヌホオズキの防除体系（ヒユ類にも効果有）

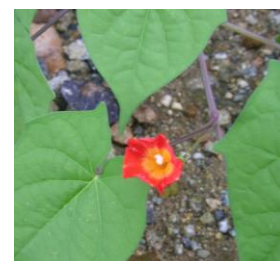
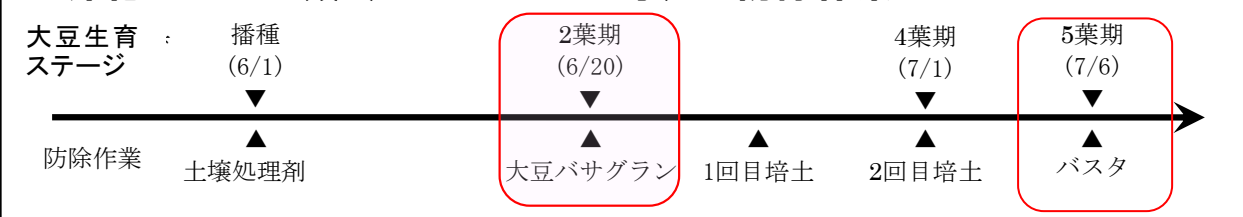


イヌホオズキ



イヌヒユ

○帰化アサガオ類（マルバルコウ等）の防除体系



マルバルコウ



アメリカアサガオ

※雑草全体にかかるよう株元までしっかり散布(吊り下げノズルを使用)しましょう。また、株間に残った雑草や培土後に新たに発生した雑草を防除するため、大豆の本葉にかからないよう散布（ノズルの調整を行う）しましょう。

※防除の際は、農薬の使用基準を正しく守るとともに、周辺作物への飛散に注意しましょう。

農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！